

農業、はじめませんか。

～就農に向けた支援を紹介～



J A管内で生産される農畜産物は、消費地からの引き合いが強く、数量拡大の要望が高まっています。J Aでは担い手経営体の育成強化はもとより、新規就農ワンストップ相談窓口・農業求人サイトの利活用などにより新規就農者を募集し、研修や経済支援など、就農前後のサポート制度を充実させることで、農業生産基盤・農業経営の維持拡大を目指し生産販売体制の強化を図っています。

就農相談

新規就農ワンストップ相談窓口

毎月第2水曜日に開設しています。農業で自立したい方や農業法人などで雇用就農をしたい方、定年退職を機に農業を始めたい方など、新規就農を目指す方に向け、各種研修や支援制度の紹介など、関係機関・団体が一堂に会し、細やかに対応します。

- ・相談日 毎月第2水曜日 一人当たり1時間程度
- ・相談申込 相談日の5日前までに関係機関にご連絡ください。

一関市農政推進課	☎21-8225
平泉町農林振興課	☎46-5564
一関農林振興センター	☎26-1413
一関農業改良普及センター	☎52-4961
J A 営農振興課	☎34-4001



就農後も手厚い支援

「TAC」が定期的（月1回程度）に訪問する他、一関農業改良普及センターやJA園芸・畜産担当者による訪問指導があります。必要に応じて関係機関と連携を取り、制度の情報提供や技術指導をしています。

Q. TACとは？

A. 地域農業の担い手のもとへ出向き、担い手の意見や要望を収集し事業に反映させ、地域農業の発展に貢献する活動を行うJA担当者を指します。

各種研修

○研修受入経営体での実践研修

- ・先進農家
- ・農業法人

○座学研修

- ・県立農業大学校新規就農者研修
- ・普及センター等研修会
- ・JA部会指導会



就農

研修

農作業を体験する

JAいわて平泉無料職業紹介所グリーンワークは、働き手を求めている農家と、農家や農業法人で働きたい方をマッチングする取り組みです。就農前に、働き手として登録することにより、農家で作業を体験することができます。また、就農後は、人材確保のため利用することができます。

JAいわてグループ農業求人サイト <https://agri-job.jp>

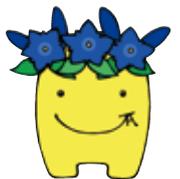
JA宮農振興課 ☎34-4001



新規栽培希望者講習 「園芸だよ！全員集合」

JAでは、農業に興味のある方や、これから農業を始めたい方を対象に、野菜や花など園芸作物について知っていただく機会を設けています。園芸作物を栽培する管内農家の現地見学会や主要品目の説明会を開催しています。

今年度は、12月1日（日）に開催します。詳しくは、本誌18ページをご覧ください。



JA園芸課 ☎34-4003

就農するための支援制度があります

一関市、平泉町では、新規就農する方の研修などを支援しています。

一関市

○新規学卒者等就農促進支援事業

J Aの臨時職員として働きながら、実地研修や座学研修を受けます。

対 象 者：研修開始日の年齢が49歳以下で、一関市内での就農を希望する方

期 間：新規学卒者は2年以内、その他は1年以内

○意欲ある農業担い手支援事業（家賃補助）

対 象 者：一関市内に転入後2年を経過しない方で、市が認定する農業研修に取り組んでいる方
または認定新規就農者

支援内容：家賃の半額（上限2万円/月）

支援期間：最長2年間

本誌19ページに、
令和7年度研修生
募集について掲載し
ています。

平泉町

○平泉町新規就農者支援事業

平泉町内で新規就農する方が、町内で研修を受ける際に補助金を交付します。

対 象 者：平泉町内に住所を有する18歳～60歳で、新規就農する方

町内の受入農業経営体で月8日以上研修を受け、研修期間が6カ月以上の方
事業終了後、町内で2年以上居住し、就農できる方

支援内容：研修支援金 5万円/月

住居費支援金 家賃の半額以内（上限2万円）

支援期間：2年以内

国の支援策

○経営開始資金

対 象 者：認定新規就農者（就農時49歳以下で独立・自営就農を開始した方 ※別途要件あり）

支 援 額：12.5万円/月（150万円/年）

支援期間：最長3年間

○経営発展支援事業（機械・設備導入支援）

対 象 者：認定新規就農者（就農時49歳以下）

支 援 額：補助対象事業費上限1,000万円（経営開始資金支援対象者は上限500万円）

補 助 率：県支援分の2倍を国が支援（国の補助上限1/2）

〈例〉国1/2、県1/4、本人1/4



みやした たくみ
宮下 琢さん
大東町大原
令和4年就農/ピーマン40a

Q 農業を始めたきっかけは何ですか？

A 東京に住んでいましたが、結婚・出産などを機に帰郷することになりました。家に居ながらできる仕事はなんだろうと考えた結果、就農することに決めました。

Q 就農までにどのような準備をしましたか？

A 農業をする上で必要なものをJAに相談したところ、新規就農ワンストップ相談窓口を紹介してもらい、1年間研修生として多くのことを学びました。

Q 実際に農業に取り組んでみて感じたことを教えてください。

A 研修を通して、地域や品目を問わず多くの生産者とながることができ、今でも農業に取り組む上でとても励みになっています。また年数を重ねるにつれ、うまくいっている実感もあり、楽しく取り組んでいます。

Q 今後の目標は何ですか？

A 今は9割を露地栽培で生産していますが、ハウス栽培での生産量を増やし、長期にわたって安定して収穫できるようにしたいです。

Q 就農を考えている方にひとこと

A 農業は、家事や育児、介護などと両立しやすい仕事だと思います。自分の生活に合わせてられるよう計画を立てることをお勧めします。

新規就農者の声

Q 農業を始めたきっかけは何ですか？

A 花き栽培をしていた父がけがをし、仕事をしながら農作業を手伝うようになりました。しかし、父のけがが治らず、自分の知識・技量不足から収量を減らしてしまい、リベンジしたい思いで農業一本に絞ろうと決めました。

Q 就農までにどのような準備をしましたか？

A JA園芸課に相談したところ、新規就農ワンストップ相談窓口を紹介してもらいました。父はスターチスとストックを栽培していましたが、認定新規就農者になるためには新しく品目を選ぶ必要があったため、小菊を中心にスターチスやストックも併せて栽培を始めました。

Q 実際に農業に取り組んでみて感じたことを教えてください。

A 新規就農者や部会員など生産者同士のつながりが強く、とても有意義に活動できています。農業改良普及センターの指導など、支援制度も充実しています。

Q 今後の目標は何ですか？

A 安定した経営ができるよう、栽培管理技術や経営力を高めていきたいです。

Q 就農を考えている方にひとこと

A まずは、なんでもやってみましょう。やりたいことにチャレンジしてみてください。



さとう けんいち
佐藤 賢一さん
大東町曾慶
令和4年就農/花き22a

「もぐもぐ！」で新規就農について紹介中！

本誌巻末で連載中の漫画「もぐもぐ！」では、新規就農について紹介しています。新規就農ワンストップ相談窓口を利用し、就農に向け準備を進めていくストーリーが描かれていますので、ぜひご覧ください。

